Ⅳ. 参考資料

令和6年度専門学校生生活調査

Ⅰ.あなた自身について

大問Ⅰでは、回答者（あなた自身）に関する基本的な情報をお聞きします。
これらの情報は、本調査の結果集計のための基礎項目になりますので、ご協力ください。

大問Ⅰの設問

1 年齢
2 性別
3 現在の居住形態
4 学科（専攻）
5 現在の学年
6 学校の所在地（都道府県）

ページ切り替え

1.年齢を選択してください

ドロップダウンリストから選択

▼ ※17歳～61歳以上

2.性別を選択してください【必須】

○ 1 男
○ 2 女
○ 3 その他
○ 4 答えない

3.現在の居住形態を選択してください【必須】

○ 1 自宅
○ 2 学生寮・寄宿舎
○ 3 下宿・アパート等

ページ切り替え

4.学科（専攻）を選択してください【必須】

○ 1 工業
○ 2 農業
○ 3 医療（看護含む）
○ 4 衛生
○ 5 教育・社会福祉
○ 6 商業実務
○ 7 服飾・家政
○ 8 文化・教養
○ 9 その他

5.現在の学年を選択してください【必須】

留年や休学した期間は数えません。
例：2年生を留年して現在3年目の場合は、「2学年」を選択してください。

○ 1 １学年
○ 2 ２学年
○ 3 ３学年
○ 4 ４学年

6.学校の所在地（都道府県）を選択してください【必須】

主に通学しているキャンパスの所在地を選択してください。
ドロップダウンリストから選択

▼ ※47都道府県

ページ切り替え

Ⅱ.学生生活の状況について

大問Ⅱでは、「1週間の中で様々な活動に充てた時間」についてお聞きします。
授業期間中の典型的な１週間をイメージして、授業、学習、サークル活動、アルバイト等に
かけた時間を回答してください。

大問Ⅱ-7「1週間の中で様々な活動に充てた時間」

- 学校の授業
- 学校の授業の予習・復習、課題など
- 卒業研究・卒業制作
- 学校の授業以外の学習
- 部活動・サークル活動
- アルバイト・定職
- 就職活動
- 娯楽・交友

ページ切り替え

7.1週間の中で様々な活動に充てた時間

授業期間中の典型的な**1週間のうち**、次のことに充てた時間を選択してください

(1)学校の授業（オンライン授業やオンデマンド型授業の視聴時間を含みます。）

○ 1 0時間
○ 2 1～5時間
○ 3 6～10時間
○ 4 11～15時間
○ 5 16～20時間
○ 6 21～25時間
○ 7 26～30時間
○ 8 31時間以上

(2)学校の授業の予習・復習、課題など

○ 1 0時間
○ 2 1～5時間
○ 3 6～10時間
○ 4 11～15時間
○ 5 16～20時間
○ 6 21～25時間
○ 7 26～30時間
○ 8 31時間以上

(3)卒業研究・卒業制作

○ 1 0時間
○ 2 1～5時間
○ 3 6～10時間
○ 4 11～15時間
○ 5 16～20時間
○ 6 21～25時間
○ 7 26～30時間
○ 8 31時間以上

(4)学校の授業以外の学習（語学学校、通信講座、独学での学習などが該当します。）

○ 1 0時間
○ 2 1～5時間
○ 3 6～10時間
○ 4 11～15時間
○ 5 16～20時間
○ 6 21～25時間
○ 7 26～30時間
○ 8 31時間以上

(5)部活動・サークル活動

○ 1 0時間
○ 2 1～5時間
○ 3 6～10時間
○ 4 11～15時間
○ 5 16～20時間
○ 6 21～25時間
○ 7 26～30時間
○ 8 31時間以上

(6)アルバイト・定職

○ 1 0時間
○ 2 1～5時間
○ 3 6～10時間
○ 4 11～15時間
○ 5 16～20時間
○ 6 21～25時間
○ 7 26～30時間
○ 8 31時間以上

(7)就職活動

○ 1 0時間
○ 2 1～5時間
○ 3 6～10時間
○ 4 11～15時間
○ 5 16～20時間
○ 6 21～25時間
○ 7 26～30時間
○ 8 31時間以上

(8)娯楽・交友

○ 1 0時間
○ 2 1～5時間
○ 3 6～10時間
○ 4 11～15時間
○ 5 16～20時間
○ 6 21～25時間
○ 7 26～30時間
○ 8 31時間以上

ページ切り替え

Ⅲ. あなた自身の経済状況について

大問Ⅲでは、あなた自身の経済状況（学生生活にかかる収入・支出の状況）についてお聞きします。
授業料、家庭からの支援の状況、奨学金の受給状況、アルバイト収入の状況、その他の学費・生活費について
お尋ねします。

大問Ⅲ あなた自身の経済状況について

8 授業料・その他の学校納付金
9 家庭からの支援
10 日本学生支援機構の給付奨学金（返還不要）
11 日本学生支援機構の貸与奨学金（要返還）
12 日本学生支援機構以外の奨学金
13 アルバイト収入
14 定職収入
15 その他の収入
16 最近1年間の授業料等以外の学費（修学費、課外活動費、通学費）
17 最近1年間の生活費(食費、住居・光熱費）
18 最近1年間の生活費（保健衛生費、娯楽・し好費、通信費、その他日常費、貯蓄額）

ページ切り替え

8. 授業料・その他の学校納付金について

8-1. あなたは今年度、授業料の減免を受けていますか

○ 1 全額受けている
○ 2 半額以上全額未満を受けている
○ 3 半額未満を受けている
○ 4 申請したが不許可になった
○ 5 申請しなかった
○ 6 授業料減免制度について知らなかった

8-2. 今年度の授業料としていくら払いましたか

授業料減免を受けている場合は、減免後の授業料を入力してください。
1年分で［　　］万円

8-3. 最近1年間で、授業料以外で学校に納付した費用はいくらですか

※ 費用が発生していない場合は、0を入力してください。
1年分で［　　］万円

8-4. 授業料及びその他の学校納付金は誰が払いましたか

奨学金で授業料や学校納付金を払った場合は「自分が払った」を選んでください。

○ 1 全額を親（又は家族）が払った
○ 2 一部を親（又は家族）が払い、一部を自分が払った
○ 3 全額を自分が払った
○ 4 その他

ページ切り替え

9. 家庭からの支援の状況について

9-1. 家庭からの支援のみで修学可能ですか（最近1年間の経験から）

○ 1 十分修学可能
○ 2 修学がやや困難
○ 3 修学が非常に困難
○ 4 家庭からの支援は受けていない

9-2. 最近1年間で家庭から受けた支援の額はいくらですか

親（又は家族）が支払った授業料・その他の学校納付金「○○○万円」も含めて入力してください。　[8-4 1を選択した場合]
授業料・その他の学校納付金も含めて入力してください。　[8-4 2または3を選択した場合]
1年間で約［　　］万円

ページ切り替え

この設問では、以下の奨学金の受給状況についてお聞きします。

①日本学生支援機構の給付奨学金（返還不要）
②日本学生支援機構の貸与奨学金（要返還）
③日本学生支援機構以外の奨学金

10. 最近１年間で、①日本学生支援機構の給付奨学金（返還不要）を受けていますか

○ 1 受けている
○ 2 受けていない

10-1. 最近1年間で受給した給付奨学金の金額を入力してください

1年間で約 [　　] 万円

10-2. 日本学生支援機構の給付奨学金を受けていない方は、あてはまるものを選択してください

○ 1 受けていたが、現在は受けていない
○ 2 申請したが不採用になった
○ 3 申請しなかった

10-2-1.「申請しなかった」理由を選択してください（複数選択可能）

□ 1 成績基準が合わなかった
□ 2 収入基準が合わなかった
□ 3 申請手続が複雑なのでやめた
□ 4 給付奨学金について知らなかった
□ 5 他の奨学金を受けられたのでやめた
□ 6 奨学金は必要なかった
□ 7 その他

ページ切り替え

11. 最近１年間で、②日本学生支援機構の貸与奨学金（要返還）を受けていますか

○ 1 第一種奨学金（無利子）を受けている
○ 2 第二種奨学金（有利子）を受けている
○ 3 第一種奨学金（無利子）・第二種奨学金（有利子）の両方を受けている
○ 4 受けていない

11-1. 最近1年間で受給した貸与奨学金の金額を入力してください

第一種奨学金（無利子）　1年間で約 [　　] 万円
第二種奨学金（有利子）　1年間で約 [　　] 万円

11-2. 日本学生支援機構の貸与奨学金を受けていない方は、あてはまるものを選択してください

○ 1 受けていたが、現在は受けていない
○ 2 申請したが不採用になった
○ 3 申請しなかった

11-2-1.「申請しなかった」理由を選択してください（複数選択可能）

□ 1 成績基準が合わなかった
□ 2 収入基準が合わなかった
□ 3 申請手続が複雑なのでやめた
□ 4 卒業後の返還が大変なのでやめた
□ 5 貸与奨学金について知らなかった
□ 6 他の奨学金を受けられたのでやめた
□ 7 奨学金は必要なかった
□ 8 その他

ページ切り替え

12. 最近1年間で、③日本学生支援機構以外の奨学金を受けましたか

○ 1 給付奨学金（返済が不要）を受けた
○ 2 貸与奨学金（返済が必要）を受けた
○ 3 給付・貸与の両方を受けた
○ 4 申請したが不採用になった（どの奨学金も受けられなかった）
○ 5 申請しなかった
○ 6 その他

12-1. 最近１年間に受給した奨学金の金額を入力してください

給付奨学金（返済が不要）の金額
1年間で約 [　　] 万円
貸与奨学金（返済が必要）の金額
1年間で約 [　　] 万円

ページ切り替え

13. 最近1年間にアルバイトをしましたか

授業期間中と長期休暇中のそれぞれについて選択してください。

ア）授業期間中
○ 1 まったくしなかった
○ 2 不定期的にした
○ 3 週に１～２日した
○ 4 週に３日以上した

イ）長期休暇中
○ 1 まったくしなかった
○ 2 不定期的にした
○ 3 週に１～２日した
○ 4 週に３日以上した

13-1. アルバイトの従事職種について主なものを１つ選択してください

○ 1 塾講師・家庭教師など
○ 2 事務
○ 3 販売
○ 4 飲食業
○ 5 販売・飲食業を除く軽労働
○ 6 重労働・危険作業
○ 7 特殊技能
○ 8 その他

13-2. 1年間のアルバイト収入額を入力してください

1年間で約 [　　] 万円

ページ切り替え

14. あなたは現在定職に就いていますか

○　1　はい

○　2　いいえ

14-1. 1年間の定職によるあなたの収入額を入力してください

1年間で約［　　］万円

ページ切り替え

15. 最近1年間のその他の収入を入力してください

※　該当する収入がない場合は、0を入力してください。

1年間で約［　　］万円

ページ切り替え

16. 最近1年間の授業料等以外の学費を入力してください

※　費用が発生していない場合は、0を入力してください。

1)修学費

1年間で約［　　］万円

2)課外活動費

1年間で約［　　］万円

3)通学費

1年間で約［　　］万円

ページ切り替え

17. 最近1年間の生活費を入力してください

※　費用が発生していない場合は、0を入力してください。

4)食費

1年間で約［　　］万円

5)住居・光熱費　［3 1を選択した場合は不活性］

1年間で約［　　］万円

ページ切り替え

18. 最近1年間の生活費を入力してください

※　費用が発生していない場合は、0を入力してください。

6)保健衛生費

1年間で約［　　］万円

7)娯楽・し好費

1年間で約［　　］万円

8)通信費

1年間で約［　　］万円

9)その他の日常費

1年間で約［　　］万円

10)貯蓄額

1年間で約［　　］万円

ページ切り替え

Ⅳ. 家計の状況について

大問Ⅳでは、あなたの家庭の家計の状況についてお聞きします。

大問Ⅳ 家計の状況について

19 主な家計支持者について

20 主な家計支持者の年齢について

21 主な家計支持者の方を含め、あなたの家庭全員の最近1年間の収入総額について

ページ切り替え

19. 主な家計支持者は誰ですか

○ 1 父

○ 2 母

○ 3 あなた自身

○ 4 配偶者

○ 5 その他

20. 主な家計支持者の年齢を選択してください

○ 1 44歳以下

○ 2 45～49歳

○ 3 50～54歳

○ 4 55～59歳

○ 5 60歳以上

21. 主な家計支持者の方を含め、あなたの家庭全員の最近1年間の収入総額を選択してください

わからない場合は、一番近いと思われる額を選択してください。

収入に含めるものについてはこちら

ドロップダウンリストから選択

[▼] 0円～1500万円以上（100～599万円までは50万円刻み、600～1,499万円は100万円刻み）

※1500万円以上を選択した場合は、実際の金額を入力してください。

約 [　　] 万円

ページ切り替え

内容確認

ご協力ありがとうございました。

独立行政法人
日本学生支援機構
JASSO Japan Student Services Organization

令和 6 年度専門学校生生活調査 調査案内

～学生の皆様へ（回答へのご協力のお願い）～

「専門学校生生活調査」は、学生支援の充実に資することを目的として、日本学生支援機構が 2 年に 1 回実施しているもので、調査結果は、国による現在及び将来の学生のための支援の検討にも活用される、大変重要な調査です。

学生生活や学生の経済状況、課題を正確に把握し、効果的な施策の企画立案に役立てたいと思いますので、是非、調査にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

独立行政法人日本学生支援機構

【留意事項】

・本調査は、奨学金を受給しているかどうかに関係なく、幅広く、回答への協力をお願いするものです。
・本調査は匿名調査です。また、回答は、直接日本学生支援機構に送信され、学校が内容を知ることはありません。
・学生生活に関する調査研究を目的として、大学等の研究者に調査結果データを提供することがありますが、提供するデータから個人が特定されることはありません。

これまでの調査結果は、こちらからご覧ください https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/

オンライン回答

回答はオンラインで行います。
以下の URL 又は二次元コードから、調査回答ページにアクセスしてください。

調査 URL

【重要】この調査は学校を通じて依頼された人だけが回答するものです。
調査回答ページの URL や二次元コードを、SNS やメールなどで絶対に拡散しないでください。

二次元コード

推奨ブラウザ	スマートフォン	iPhone Safari 最新版　Android Google Chrome 最新版
	PC	Windows　Microsoft Edge 最新版、Google Chrome 最新版　Mac　Safari 最新版

回答期間

令和 6 年

11 月 1 日（金）

～

12 月 20 日（金）

※一度送信した回答を、修正することはできません。

■事前の回答準備（下書き）■

この調査の設問は 21 問です。

このうち、「学費・生活費」、「収入」、「家庭の年間収入総額」については、1 年間のおよその額を尋ねますので、3 ページ以降の「**2.金額の下書き**」で、各項目の金額を事前に確認してください。そのうえで、回答ページにアクセスすれば、回答は約 15 分で完了します。

■回答の中断・再開について■

回答を一時停止したい場合は、各画面下の「回答を中断する」をクリックしてください。または、ブラウザを閉じても構いません。入力した情報は、使用端末（スマホや PC）に保存されます。

同じ端末で、再度、回答ページにアクセスすると、「回答を再開する」というボタンが表示されますので、これをクリックして再開してください。

※中断前とは違う端末からアクセスした場合は、初めからやり直しになります。

1．調査項目一覧（全 21 問）

Ⅰ．あなた自身について･･･あなた自身に関する基本的な情報をお聞きします	
1 年齢	2 性別
3 現在の居住形態	4 学科（専攻）
5 現在の学年	6 学校の所在地
Ⅱ．学生生活の状況について･･･あなたの学生生活の状況についてお聞きします	
7 １週間の中で様々な活動に充てた時間 授業/予習・復習等/卒業研究/学校以外での学習/部活・サークル/アルバイト/就職活動/娯楽・交友	
Ⅲ．あなた自身の経済状況について･･･あなた自身の経済状況（学生生活にかかる収入・支出の状況）についてお聞きします	
8 授業料・その他の学校納付金について	
8-1 あなたは今年度、授業料の減免を受けていますか	
8-2 今年度の授業料としていくら払いましたか	下書きあり
8-3 最近 1 年間で、授業料以外で学校に納付した費用はいくらですか	下書きあり
8-4 授業料及びその他の学校納付金は誰が払いましたか	
9 家庭からの支援の状況について	
9-1 家庭からの支援のみで修学可能ですか	
9-2 最近 1 年間で家庭から受けた支援の額はいくらですか	下書きあり
10 最近 1 年間で①日本学生支援機構の給付奨学金（返還不要）を受けていますか	
10-1 最近 1 年間で受給した給付奨学金の金額を入力してください	下書きあり
10-2 日本学生支援機構の給付奨学金を受けていない方は、あてはまるものを選択してください	
10-2-1 「申請しなかった」理由を選択してください	
11 最近 1 年間で②日本学生支援機構の貸与奨学金（要返還）を受けていますか	
11-1 最近 1 年間で受給した貸与奨学金の金額を入力してください	下書きあり
11-2 日本学生支援機構の貸与奨学金を受けていない方は、あてはまるものを選択してください	
11-2-1 「申請しなかった」理由を選択してください	
12 最近 1 年間で③日本学生支援機構以外の奨学金を受けましたか	
12-1 最近 1 年間に受給した奨学金の金額を入力してください	下書きあり
13 最近 1 年間にアルバイトをしましたか（授業期間中・長期休暇中）	
13-1 アルバイトの従事職種について主なものを 1 つ選択してください	
13-2 1 年間のアルバイト収入額を入力してください	下書きあり
14 あなたは現在定職に就いていますか	
14-1 1 年間の定職によるあなたの収入額を入力してください	下書きあり
15 最近 1 年間のその他の収入を入力してください	下書きあり
16 最近 1 年間の授業料等以外の学費（修学費、課外活動費、通学費）を入力してください	下書きあり
17 最近 1 年間の生活費（食費、住居・光熱費）を入力してください	下書きあり
18 最近 1 年間の生活費（保健衛生費、娯楽・し好費、通信費など）を入力してください	下書きあり
Ⅳ．家計の状況について･･･あなたの家庭の家計の状況についてお聞きします	
19 主な家計支持者は誰ですか	
20 主な家計支持者の年齢を選択してください	
21 主な家計支持者の方を含め、あなたの家庭全員の最近 1 年間の収入総額を選択してください	下書きあり

２．金額の下書き

設問Ⅲで、以下の項目について、最近１年間のおよその額をお尋ねしますので、事前に確認してください。

金額は、千の位を四捨五入して「万円」単位でお答えください。ただし、年額が 5,000 円未満になる場合は、切り上げて「1 万円」としてください。

設問	項目	金額	説明
設問 8-2 から設問 14-1 までの各項目は、**該当しない場合、回答不要**です。			
《支出》 8-2	授業料	1 年分で　　万円	授業料が年額 60 万円で、半額の減免を受けた場合は、30 万円と回答。
《支出》 8-3	授業料以外で学校に納付した費用	1 年分で　　万円	施設費、実験実習費、後援会費など。ただし、入学金等の一時金は除きます。
これ以降の設問では、**最近 1 年間の金額**を回答してください。 最近 1 年間：令和 5 年 12 月～令和 6 年 11 月の 1 年間。 令和 6 年度に入学した方は、令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月の 1 年間の見込み。			
【収入】 9-2	家庭から受けた支援の額	1 年間で約　　万円	家庭からの支援とは、修学のために親などから受けた授業料や仕送りなどを含めた金銭的援助のこと。
【収入】 10-1	日本学生支援機構の給付奨学金	1 年間で約　　万円	卒業後の返還が不要な奨学金。
【収入】 11-1	日本学生支援機構の貸与奨学金（第一種・無利子）	1 年間で約　　万円	卒業後の返還が必要な奨学金。 奨学金の金額は、機関保証料を含んだ年額で回答してください。 金額は P.8 参考資料で確認できます。 機関保証料は、スカラネットＰＳや奨学生証で確認できます。
	日本学生支援機構の貸与奨学金（第二種・有利子）	1 年間で約　　万円	
【収入】 12-1	日本学生支援機構以外の給付奨学金	1 年間で約　　万円	学校、地方公共団体、民間の奨学事業団体などから受けている奨学金・奨励金など。
	日本学生支援機構以外の貸与奨学金	1 年間で約　　万円	
【収入】 13-2	アルバイト収入額	1 年間で約　　万円	
【収入】 14-1	定職収入額	1 年間で約　　万円	定職とは臨時的（アルバイト等）ではない安定した職業（会社員や自営業など）。
設問 15 から設問 18 までの各項目は、**該当しない場合、「0」と回答**してください。			
【収入】 15	その他の収入	1 年間で約　　万円	貯蓄の取り崩し、借り入れ、資産運用による利子収入、配当収入、その他の臨時的な収入など、他の項目に含まれない収入の総額。
《支出》 16	修学費	1 年間で約　　万円	教科書・参考図書・実習材料・文具類の購入費、実習旅行費、実習のための保険料など。
	課外活動費	1 年間で約　　万円	サークル活動や自治会活動など課外活動に支出した経費。
	通学費	1 年間で約　　万円	通学に要する経費。定期代、自転車、バイクや自動車などのガソリン代、維持費など。

《支出》17	食費	1 年間で約　　万円	自宅に住んでいる場合は、外食費のみを回答してください。間食、酒などのし好品は「娯楽・し好費」に回答してください。
	住居・光熱費	1 年間で約　　万円	家賃（管理費、共益費など含む）、光熱水費、暖房費などの合計額。食事付きの寮等で食費が含まれる場合は、食費分を除いた額。 自宅通学者は回答不要。
《支出》18	保健衛生費	1 年間で約　　万円	診療代・薬代・理容美容代・化粧品代・銭湯代など。
	娯楽・し好費	1 年間で約　　万円	趣味、旅行、レクリエーション、酒、タバコ、間食代など。
	通信費	1 年間で約　　万円	携帯電話、固定電話、インターネットの利用料金など。
	その他の日常費	1 年間で約　　万円	衣服代、帰省のための交通費、社会保険料（年金等）など、他の項目に含まれない日常的な経費すべて。
	貯蓄額	1 年間で約　　万円	1 年間で貯蓄した額（増えた額）。残高ではありません。

【収入】の合計額　　万円　　《支出》の合計額　　万円

【収入】の合計額と、《支出》の合計額に大きな差額がある場合は、入力した金額の誤り又は入力漏れがないか、見直しをお願いします。

21　主な家計支持者の方を含め、あなたの家庭全員の最近 1 年間の収入総額を選択してください

学生の収入は除外します。ただし、「主な家計支持者」が学生の場合は、その方の収入を含めてください。

1 つを選択

▼

○0 円　○100 万円未満　○100-149 万円　○150-199 万円
○200-249 万円　○250-299 万円　○300-349 万円　○350-399 万円
○400-449 万円　○450-499 万円　○500-549 万円　○550-599 万円
○600-699 万円　○700-799 万円　○800-899 万円　○900-999 万円
○1000-1099 万円　○1100-1199 万円　○1200-1299 万円　○1300-1399 万円
○1400-1499 万円　○1500 万円以上

※1500 万円以上を選択した場合は、実際の金額を入力してください。

金額

万円

家庭全員の最近 1 年間の収入総額に含めるもの

項目	説明
事業所得	個人が経営する農業・漁業・製造業・卸売業・小売業・サービス業などから生ずる所得で、その年の総収入から事業経営に必要な経費を控除した額です。（農業、小売業などで生産品または商品を自家消費した場合は、時価に換算した見積額を所得に加算してください。）
給与収入	俸給、給料、賃金、歳費、賞与など、労務または役務の対価として受けた収入です。
資産収入	利子収入、配当収入、不動産収入など、資産から生ずる収入です。
その他の収入	恩給、年金、家庭の内職収入および世帯員以外の者からの経済的援助などの合計額です。（退職金、財産売却、相続などのため、臨時的に得た収入および借入金は含めないでください。また、臨時的に得た給付金や助成金等も、含めないでください。）

3．設問に出てくる用語の説明

3 現在の居住形態

用語	説明
自宅	親・家族と同居している場合
学生寮・寄宿舎	学校が設置する寮、学校の借り上げ宿舎、公益法人等が運営する寄宿舎など
下宿・アパート等	単身で居住する下宿、アパート、学生マンション、間借（親戚・知人宅を含む）など

4 学科（専攻）

用語	説明
工業	情報処理、土木・建築、電気・電子、自動車整備、ゲーム、CG 等
農業	農業、園芸、畜産、バイオテクノロジー、ガーデンビジネス、フラワービジネス、動物管理等
医療（看護含む）	看護、准看護、歯科衛生、歯科技工、臨床検査、診療放射線、はり・きゅう・あんま、柔道整復、理学・作業療法等
衛生	調理、栄養、製菓・製パン等／理容・美容、メイク、エステティック等
教育・社会福祉	保育、幼児教育、社会福祉、介護福祉、医療福祉等
商業実務	経理・簿記、秘書、経営、情報、観光・ホテル、ブライダル、医療事務等
服飾・家政	和洋裁、服飾、ファッションデザイン、ファッションビジネス等
文化・教養	音楽、美術、マンガ・アニメ、グラフィックデザイン、外国語、演劇・映画、写真、通訳・翻訳、動物（トリマー）、公務員、司法書士、行政書士、スポーツ等

8-1 授業料の減免

用語	説明
授業料の減免	成績や経済状況等により、授業料の全部又は一部が免除される制度。一度支払った後に還付された場合も含む。

13-1 アルバイトの従事職種

用語	説明
塾講師・家庭教師など	塾・予備校講師、家庭教師、試験監督・採点など
事務	一般事務、データ入力、パソコン入力事務、コールセンターなど
販売	コンビニ・スーパー・デパート・量販店等での販売（レジ係を含む）、営業など
飲食業	調理、接客、デリバリーなど
販売・飲食業を除く軽労働	清掃、警備、包装、配布、新聞配達、製造、調査、イベントスタッフなど
重労働・危険作業	土木工事、重量物運搬、引越しスタッフ、倉庫整理、プレス作業、建築の現場作業、高所の屋外作業など
特殊技能	通訳、翻訳、製図、プログラミング、インストラクターなど
その他	上記の職種にあてはまらない職種

４．設問に関するＱ＆Ａ

●設問８　授業料・その他学校納付金について

Q1　授業料の減免を受けていますが、今年度の授業料は、減免前・減免後のどちらを回答すればいいでしょうか。

A1　減免後の授業料（実際に支払う額）を回答してください。

Q2　入学金や入学時に傷害保険や後援会費等を複数年分一括納入する場合については、どの項目に計上すればいいのでしょうか。

A2　入学金など入学時のみ支払う費用については、回答不要です。

Q3　授業料をいったん払った後に、減免を受けられることが決まり、払った授業料（の一部）が戻ってきました。この場合、「今年度の授業料」はどのように回答すればいいでしょうか。

A3　戻ってきた減免分の金額を引いた額を回答してください。

Q4　授業料をいったん払った後に、減免を受けられることが決まりましたが、まだ払った授業料（の一部）が戻ってきていません。この場合、「今年度の授業料」はどのように回答すればいいでしょうか。

A4　戻ってくる予定の減免分の金額を引いた額を回答してください。

Q5　「授業料及びその他の学校納付金は誰が払いましたか」について、一部は自分で支払いましたが、残りを親（家族）以外の人に支払ってもらった場合は、どうすればよいですか。

A5　「その他」を選択してください。

●設問 10・11　日本学生支援機構の奨学金について

Q6　日本学生支援機構の奨学金を受けていましたが、この 1 年の間に廃止（又は停止、休止）になりました。この場合は、どのように回答すればよいですか。

A6　最近 1 年間のうち、ひと月でも受けた月があれば、「受けている」を選択してください。なお、金額については、毎月の給付額／貸与額に、給付／貸与を受けた期間（月数）を掛けた金額を入力してください。

Q7　「日本学生支援機構の貸与奨学金」は機関保証料を引かれた後の金額を回答するのですか。

A7　いいえ。「日本学生支援機構の貸与奨学金」には機関保証料を含んだ年額を回答し、「最近 1 年間の生活費」の「その他の日常費」に、機関保証料の年額を支出額に回答してください。
機関保証料は、スカラネットＰＳや奨学生証に書いてあります。

●設問 13　アルバイトについて

Q8　「アルバイトの従事職種」について、複数のアルバイトをしている場合、「主なもの」とはどのように判断すればよいですか。

A8　1 週間あたりの従事時間が一番長いものを、目安として回答してください。

●設問 16　最近１年間の授業料等以外の学費について

Q9　通学以外にかかったガソリン代はどの項目に入りますか。

A9　「その他の日常費」に回答してください。通学と通学外に分けることができない場合は、通学の割合が高い場合は「通学費」に、通学以外の割合が高い場合は「その他の日常費」に、全額回答してください。

●設問 17・18　最近１年間の生活費について

Q10　自宅に住んでいるため、自分の食費を家族の分から切り分けられません。どうすればよいですか。

A10　自宅に住んでいる方は、昼食代などの外食費のみを食費として回答してください。

Q11　入寮費はどこに回答すればよいですか。

A11　「住居・光熱費」に合算して回答してください。

Q12 現在の居住形態は「自宅」（親と同居）ですが、家賃や光熱費の一部を自分も負担しています。「住居・光熱費」が入力できないようですが、どうすればいいのでしょうか。

A12 居住形態が「自宅」の場合、「住居・光熱費」は一律に回答不要としています。家賃等を負担している場合は、1 年間の負担額を「その他の日常費」に含めて回答してください。

Q13 自分自身が支払った社会保険料・税金・奨学金返済額など、回答欄に項目がない支出は、どの項目に回答すればよいですか。

A13 「その他の日常費」に回答してください。

●大問Ⅳ 家計の状況について

Q14 父母ともに働いて家計を支持しています。「主な家計支持者」はどちらを選べばいいのでしょうか。

A14 収入が多い方を「主な家計支持者」としてください。

Q15 1 年間の収入とは、給与明細（源泉徴収票）のどの金額を指しますか。

A15 支払総額（年額）を指します。

Q16 最近 1 年間の家庭全員の収入総額には、自分の収入も含めるのでしょうか。

A16 あなたを含めて、学生の方の収入は除外してください。ただし、あなた、もしくはあなた以外の学生の方（兄弟姉妹など）が、家庭の「主な家計支持者」である場合は、学生であっても、その収入を家庭の収入総額に含めてください。

参考資料　日本学生支援機構の給付奨学金･貸与奨学金の月額

○日本学生支援機構　給付奨学金（返還不要）

区分		自宅通学者	自宅外通学者
国公立	第 1 区分	29,200 円(33,300 円)	66,700 円
	第 2 区分	19,500 円(22,200 円)	44,500 円
	第 3 区分	9,800 円(11,100 円)	22,300 円
	第 4 区分（多子世帯）	7,300 円(8,400 円)	16,700 円
私立	第 1 区分	38,300 円(42,500 円)	75,800 円
	第 2 区分	25,600 円(28,400 円)	50,600 円
	第 3 区分	12,800 円(14,200 円)	25,300 円
	第 4 区分（多子世帯）	9,600 円(10,700 円)	19,000 円

※親と同居している生活保護世帯の方、児童養護施設等から通学する方は、()内の金額になります。

○日本学生支援機構　第一種奨学金（要返還･無利子）

区分	自宅通学者　※以下から選択	自宅外通学者　※以下から選択
国公立	20,000 円、30,000 円、45,000 円	20,000 円、30,000 円、40,000 円、51,000 円
私立	20,000 円、30,000 円、40,000 円、53,000 円	20,000 円、30,000 円、40,000 円、50,000 円、60,000 円

※第一種奨学金を給付奨学金と併せて利用する場合は、以下の金額になります（併給調整）

区分		自宅通学者	自宅外通学者
国公立	第 1 区分	1,900 円(3,800 円)	0 円
	第 2 区分	16,200 円(19,500 円)	0 円
	第 3 区分	20,000 円、30,500 円 (20,000 円、35,200 円)	24,000 円
	第 4 区分（多子世帯）	20,000 円、34,200 円 (20,000 円、39,100 円)	20,000 円、30,800 円
	第 4 区分（理工農系）	併給調整なし	併給調整なし
私立	第 1 区分	0 円(0 円)	0 円
	第 2 区分	0 円(0 円)	0 円
	第 3 区分	23,800 円(29,400 円)	18,300 円
	第 4 区分（多子世帯）	20,000 円、31,100 円 (20,000 円、37,000 円)	28,700 円
	第 4 区分（理工農系）	20,000 円、30,000 円、40,700 円 (20,000 円、30,000 円、47,700 円)	20,000 円、30,000 円、47,700 円

※親と同居している生活保護世帯の方、児童養護施設等から通学する方は、()内の金額になります。

○日本学生支援機構　第二種奨学金（要返還･有利子）

区分	学科	自宅／自宅外通学者共通　※以下から選択
国公私立	全学科	20,000 円、30,000 円、40,000 円、50,000 円、60,000 円、70,000 円、80,000 円、90,000 円、100,000 円、110,000 円、120,000 円

令和6年度
学生生活調査・高等専門学校生生活調査・
専門学校生生活調査　実施の手引

（学校事務担当者用）

独立行政法人
日本学生支援機構
JASSO Japan Student Services Organization

目 次

Ⅰ 調査の概要 1
Ⅱ 調査実施の流れとシステムの概要 2
Ⅲ 調査開始前の事務 3
Ⅳ 調査実施期間中の事務 7
Ⅴ 学校担当者用システムの構成 8
Ⅵ 調査に関する Q&A 9

※本手引では、お送りした以下の資料について、右欄の略称を用いますので、ご了承ください。

資料名称	本手引で用いる略称
令和６年度学生生活調査　調査依頼数等について 令和６年度高等専門学校生生活調査　調査依頼数等について 令和６年度専門学校生生活調査　調査依頼数等について	「調査依頼数等について」
令和６年度学生生活調査　調査案内 令和６年度高等専門学校生生活調査　調査案内 令和６年度専門学校生生活調査　調査案内	「調査案内」

Ⅰ　調査の概要

1　調査の目的

この調査は、全国の学生を対象として、学生生活状況を把握することにより、学生生活支援事業の充実のための基礎資料を得ることを目的としています（隔年調査）。

2　調査の対象

学生生活調査：大学学部、短期大学及び大学院の学生
高等専門学校生生活調査：高等専門学校（第４、５学年）の学生
専門学校生生活調査：専門学校（専修学校専門課程）の学生
※いずれの調査も社会人学生は対象とし、次の学生は対象外とします。
・休学者及び外国人留学生
・通信制課程、専攻科、別科に在籍する学生
・科目履修生、聴講生、研究生

! 本調査は、奨学金事業に関する調査ではありません。奨学金を受給しているかどうかに関係なく、幅広く学生の皆様を対象として、学生生活及び経済状況等について調査するものです。

3　調査の実施方法

オンライン調査

4　調査実施期間

令和６年 11 月１日（金）～令和６年 12 月 20 日（金）

5　調査依頼数（依頼時点）　※貴校の調査依頼数は、「調査依頼数等について」でご確認ください。

学生生活調査：132,915 人
高等専門学校生生活調査：5,911 人
専門学校生生活調査：17,910 人

（参考）調査区分及び設置者別の抽出率

設置者／調査区分	国 立	公 立	私 立
大学学部　昼間部	3／76	1／10	1／63
大学学部　夜間部	27／35	（全数調査）	13／38
短期大学　昼間部		33／40	2／25
短期大学　夜間部		（全数調査）	（全数調査）
大学院　修士課程	9／92	33／68	4／27
大学院　博士課程	3／14	25／33	2／5
大学院　専門職学位課程	57／82	（全数調査）	11／17
高等専門学校	7／34	（全数調査）	（全数調査）
専門学校		18／83	1／40

6　調査内容について：前回（令和４年度）調査からの主な変更点

○ 学生の経済状況（1 年間の収入・支出）に関する設問について、回答しやすさや回答の正確性確保の観点から、設問順序や金額の入力単位（「千円」単位から「万円」単位へ）等を変更しています。
○ 家庭の年間収入に関する設問については、金額を入力する方式から、一定幅の金額からの選択方式に変更しています。
○ 大学院の調査は、大学院生の修学状況等の実態を踏まえ、調査内容を全面的に見直しています。

Ⅱ　調査実施の流れとシステムの概要

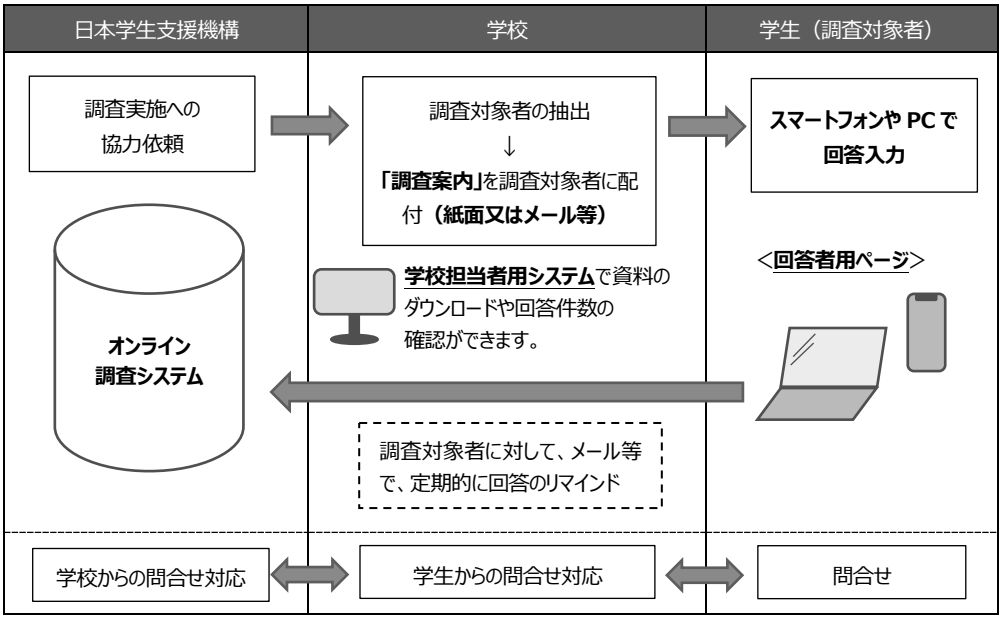
1　調査実施の流れ

日本学生支援機構からの依頼に基づき、各学校で調査対象者を抽出し、調査対象者に「調査案内」を配付して、調査への回答を依頼します（詳細は、３～６ページでご確認ください）。

学生はスマートフォンや PC で回答を行い、回答データは、日本学生支援機構に送信されます。

学校で回答を回収していただく必要はありません（学校が回答内容を見ることはできません）。

■調査実施の流れ（図）



2　学校担当者用システム

学校担当者の方が、調査関係書類のダウンロードや、回答済学生数の確認等を行うためのシステムです。

以下のページから、「調査依頼数等について」に記載されたログイン ID（学校コード）とパスワードでログインして、ご利用ください。 ※画面の構成などは８ページをご覧ください。

https://student-survey.jasso.go.jp/manager/login

＜PC 推奨ブラウザ＞

Windows：Microsoft Edge 最新版、Google Chrome 最新版

Mac：Safari 最新版

3　回答者用ページ

学生（調査対象者）が調査に回答するためのページは、次ページの表のように、９つの調査区分ごとに設定され、さらに学校ごとに URL が異なります。

URL 及び二次元コードは、学生への配付資料「調査案内」に記載されています。「調査案内」も、９つの調査区分ごとに作成されており、用紙の色が異なっています。

学校担当者用システムのトップページのリンクから、回答者用ページのサンプル画面を確認できます。誤って回答を送信してしまうことを防止するため、学生が利用する回答者用ページにはアクセスしないようにしてください。

■回答者用ページ URL など

調査区分	回答者用ページURL ※XXXXXXXXの部分は、学校ごとに異なります	「調査案内」の用紙の色
大学学部　昼間部	https://student-survey.jasso.go.jp/2024gakubu_d/XXXXXXXX	白色
大学学部　夜間部	https://student-survey.jasso.go.jp/2024gakubu_n/XXXXXXXX	桃色
短期大学　昼間部	https://student-survey.jasso.go.jp/2024tandai_d/XXXXXXXX	白色
短期大学　夜間部	https://student-survey.jasso.go.jp/2024tandai_n/XXXXXXXX	桃色
大学院　修士課程	https://student-survey.jasso.go.jp/2024daigakuin_m/XXXXXXXX	緑色
大学院　博士課程	https://student-survey.jasso.go.jp/2024daigakuin_d/XXXXXXXX	青色
大学院　専門職学位課程	https://student-survey.jasso.go.jp/2024daigakuin_s/XXXXXXXX	黄色
高等専門学校	https://student-survey.jasso.go.jp/2024kousen/XXXXXXXX	白色
専門学校	https://student-survey.jasso.go.jp/2024senmon/XXXXXXXX	白色

＜推奨環境＞

PC 推奨ブラウザ　Windows：Microsoft Edge 最新版、Google Chrome 最新版

Mac：Safari 最新版

スマートフォン推奨ブラウザ　iPhone：Safari 最新版　／　Android：Google Chrome 最新版

Ⅲ　調査開始前の事務

1　学生への事前周知

より多くの学生から回答が得られるよう、貴校の学生へ、調査の実施について、可能な限り事前に周知いただくよう、お願いいたします。※周知にあたっては、以下の文例を参考にしてください。

事前周知文の例

学生の皆様へ

今年の 11 月～12 月にかけて、日本学生支援機構による「令和 6 年度《学生生活調査》《高等専門学校生生活調査》《専門学校生生活調査》」が実施されます。

この調査は、学生支援の充実を図ることを目的として 2 年に 1 回実施されるもので、調査結果は、国の学生支援策のための基礎資料として活用されています。

今後、調査対象となる学生には、改めて回答方法等について連絡します。

学生生活や学生の経済状況の現状、課題を、調査に基づいて正確に把握することは、効果的な学生支援策の実施のために必要不可欠ですので、調査対象に選ばれた際は、是非協力いただくようよろしくお願いします。

※これまでの調査の結果はこちらからご覧ください。https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/

2 調査対象者の抽出

「調査依頼数等について」に記載された調査依頼数に基づき、次の方法により、在籍する学生から調査対象者を抽出してください。

（1）抽出用名簿の作成

①令和 6 年 5 月 1 日現在の在籍者から、調査対象者を抽出します（令和 6 年秋入学者は対象外です）。抽出用名簿は、次の学生を対象に作成してください。なお、この調査は、奨学金受給者のみを対象とする調査ではありません。奨学金受給の有無にかかわらず調査の対象としてください。

学生生活調査：大学学部、短期大学及び大学院の学生
高等専門学校生生活調査：高等専門学校（第 4、5 学年）の学生
専門学校生生活調査：専門学校（専修学校専門課程）の学生
※いずれの調査も社会人学生は対象とし、次の学生は対象外とします。
・休学者及び外国人留学生
・通信制課程、専攻科、別科に在籍する学生
・科目履修生、聴講生、研究生

②大学学部及び短期大学については、昼間部・夜間部別、大学院については、修士課程・博士課程・専門職学位課程別に在籍者を分類してください。

なお、大学院の各課程は、以下を指します。

修士課程	修士課程、博士前期課程、一貫制博士課程の前期 2 年（医・歯・薬・獣医学を除く）
博士課程	博士後期課程、一貫制博士課程の後期 3 年、医・歯・薬・獣医学の 4 年制博士課程
専門職学位課程	専門職学位を取得できる大学院の研究科・専攻 ※該当する研究科・専攻名を、「調査依頼数等について」に記載していますのでご確認ください。

（2）調査数の配分

学部等について偏りが生じないよう、次の例のとおり、依頼された調査数を在籍者数に応じて比例配分してください。

例）調査数が 340 人の大学で、文学部に 700 人、工学部に 1,300 人在籍している場合。

$$\text{文学部の調査数} = \frac{700\text{ 人（文学部の在籍学生数）}}{2{,}000\text{ 人（文学部と工学部の合計在籍学生数）}} \times 340\text{ 人（調査数）} = 119\text{ 人}$$

→ 文学部 119 人、工学部 221 人 と配分してください。

（3）調査対象者の抽出

上記 (1)の抽出用名簿、(2)で配分した調査数に基づき、次のとおり調査対象となる学生を抽出してください。

①抽出の手順

手順ⅰ）抽出間隔を、「学生数／調査数（小数点以下切り捨て）」により、算出してください。

手順ⅱ）抽出の起点となる学生(Ａ)を、抽出用名簿の先頭～手順ⅰで求めた抽出間隔の間で、無作為に選んでください。

手順ⅲ）学生(Ａ)を起点に、調査依頼数分の学生が抽出されるまで、手順ⅰで求めた抽出間隔ごとに学生を抽出してください。(Ａを含めて)抽出された学生が調査対象者です。

抽出例）調査数が 119 人、学生が 700 人在籍している場合。

学籍番号	通し番号	
ABC0001	1	「700（学生数）／119（調査数）＝5
ABC0002	2	（小数点以下切り捨て）」･･･手順ⅰ
ABC0003	3	
ABC0004	4	←調査対象
ABC0005	5	（抽出の起点(学生(Ａ))を、1～5 の間で無作為に選定）･･･手順ⅱ
ABC0006	6	
ABC0007	7	
ABC0008	8	
ABC0009	9	←調査対象（抽出の起点(番号 4)+抽出間隔 5）･･･手順ⅲ
ABC0010	10	
ABC0011	11	
ABC0012	12	
ABC0013	13	
ABC0014	14	←調査対象（抽出の起点(番号 4)+抽出間隔 5+抽出間隔 5）
ABC0015	15	
・ ・ ・	・ ・ ・	調査依頼数分の学生が抽出されるまで、手順ⅲを繰り返す。

※手順ⅰで抽出間隔が「1」となった場合は、半数以上の学生が調査対象ですので、調査対象とならない学生を無作為抽出し、抽出されなかった学生を調査対象とする方法をとってください。調査対象とならない学生は、抽出間隔を「学生数／（学生数-調査数）(小数点以下切り捨て)」により算出し、手順ⅱ、ⅲと同様に抽出してください。

※学校担当者用システムに、「調査対象者の抽出」（Excel）を用意しています。学生数と調査数を入力すると、抽出の起点となる番号と抽出間隔が算出されますので、適宜ご利用ください。

②抽出上の注意点

・抽出は必ず「①抽出の手順」の方法で行ない、日本学生支援機構の奨学金受給者のみを対象とするなど、作為的に抽出しないでください。

・抽出により決定した調査対象者は、変更しないでください。抽出された学生が調査を拒否した場合や、本年５月１日現在では在籍していたものの、その後に休退学した学生が対象となった場合も、新たな調査対象者の抽出は不要です。

・上記の抽出方法で抽出した結果が、貴校内では偏りがあると思われる学生が抽出されていたとしても（自宅から通学する学生が多かった場合など）、調査全体としては確率的に調整されるので、抽出結果の修正は不要です。

3 調査対象者への回答依頼

11 月 1 日以降すみやかに、調査対象者へ「調査案内」を配付して、回答を依頼してください。

「調査案内」は、当機構から送付した紙面の配付、学校担当者用システムからダウンロードした PDF の送信、紙面の配付と PDF の送信の併用など、各校において便利な方法で行ってください。

調査区分ごとに、「調査案内」は異なりますので、間違えないよう配付してください（3 ページの表「回答者ページ URL など」参照のこと）。

「調査案内」は、調査対象者だけに配付（送信）し、他の学生が見ることのできるウェブサイト（学内サイトも含む）などには掲載しないでください。

＜依頼時にご協力いただきたい点＞

・1 年間の収入・支出、家庭の年間収入のように、金額が問われる質問は、「調査案内」の「下書き」で事前に確認するよう、ご指導ください。
・授業料、その他の学校納付金、学校独自の奨学金など、各学校で金額が決まっているものは、一覧表でその額を調査対象者に示すなど、正確な回答を促すようご協力ください。
・家庭の年間収入は選択式での回答です。できる限り家族に確認を取るよう、促してください。難しい場合は、学生自身が最も近いと考える金額を選択するよう、ご指導ください。

※ 調査対象者に、メールや文書で回答を依頼する際は、下記の文例を参考にしてください。

学生への依頼文例

令和 6 年度《学生生活調査》《高等専門学校生生活調査》《専門学校生生活調査》
調査対象の学生の皆様へ

あなたは、日本学生支援機構による標記の調査の被調査学生として抽出されました。

この調査は、国の学生支援の充実を図ることを目的に、2 年に 1 回行われます。できるだけ多くの学生から回答を得ることが、効果的な学生支援策のために重要になりますので、是非、回答への協力をお願いします。

下記の注意事項を読み、事前に準備をした上で、添付の「令和 6 年度《学生生活調査》《高等専門学校生生活調査》《専門学校生生活調査》調査案内」に掲載された URL 又は二次元コードから、調査の回答ページにアクセスして回答してください。

【調査回答期限】
令和 6 年 12 月 20 日（金）

【注意事項】
・この調査は匿名調査で、回答から個人が特定されることはありません。
・回答する前に、添付の「令和 6 年度《学生生活調査》《高等専門学校生生活調査》《専門学校生生活調査》調査案内」を読み、調査の内容などを確認してください。
・金額回答を求められる質問については、事前に下書きをして準備をお願いします。
・「調査案内」には、用語の説明や Q&A が掲載されていますので、分からないことがある場合は、こちらで確認してください。
・この調査は、依頼された学生だけが回答するものですので、あなた以外の人に URL や二次元コードを絶対に教えないでください。
・奨学金を受けているかどうかに関係なく、回答をお願いします。

Ⅳ 調査実施期間中の事務

1 再周知

より多くの学生から回答が得られるよう、調査の実施期間中、1～2 回程度の督促（再周知）をお願いします。

督促（再周知）の実施例
11 月 1 日（金）以降　調査の依頼。学生への依頼文例は、6 ページをご覧ください。
12 月 13 日（金）　回答期限まで 1 週間であることを周知。
12 月 19 日（木）　明日が回答期限であることを周知。
※上記を参考に、貴校の状況に応じて再周知をお願いします。

※回答状況によって、調査期間を延長する場合は、早めに、日本学生支援機構から、学校担当者用システム又はメールによりお知らせしますので、学生への周知をお願いします。

2 問い合わせ

（1）学校から日本学生支援機構への問い合わせ

調査に関するよくあるお問い合わせについては、9～10 ページ「Ⅵ 調査に関する Q&A」に記載しています。このほかに不明な点等ございましたら、下記の日本学生支援機構問い合わせ先へ、お問い合わせください。

【お問い合わせ先】
独立行政法人日本学生支援機構　学生生活部学生支援企画課学生支援調査係
〒135-8630 東京都江東区青海 2-2-1
電話：03-5520-6169　E-mail：g-chousa@jasso.go.jp（組織メール）

（2）学生からの問い合わせ

誠に恐れ入りますが、学生からの質問は貴校でとりまとめいただき、当機構にお問い合わせください（学生からの直接の問い合わせは、受け付けておりません）。なお、「調査案内」に掲載された用語の説明や Q&A、また、回答者用ページ内のツールチップなどをよく確認するよう、学生にご指導いただきますよう、よろしくお願いいたします。

Ⅴ　学校担当者用システムの構成

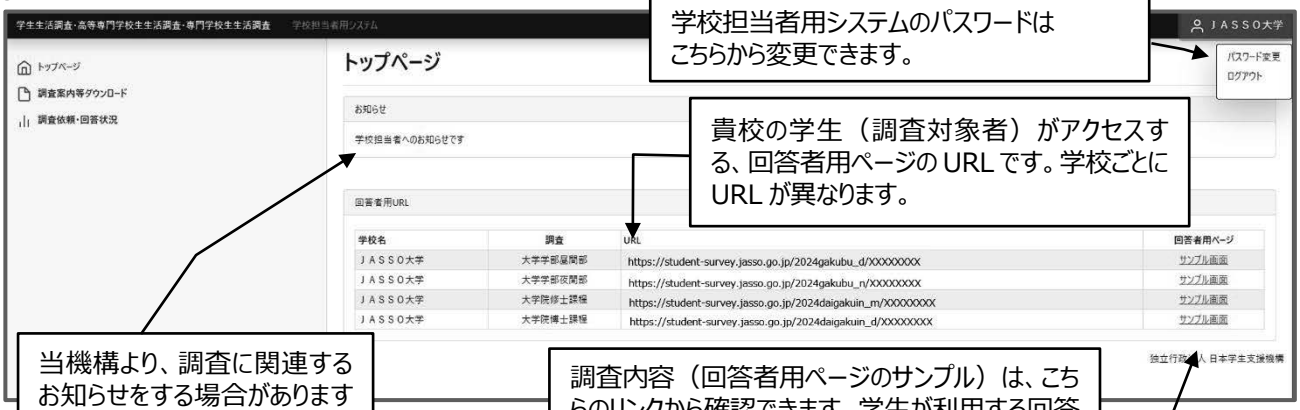
※実際の画面レイアウトとは異なることがあります

①ログイン画面



「調査依頼数等について」に記載の
ログイン ID／初期パスワードを入力してください。
※パスワードは初回ログイン後変更可能です。
※複数のユーザーが同時にログインしても
　問題ありません。

②トップページ



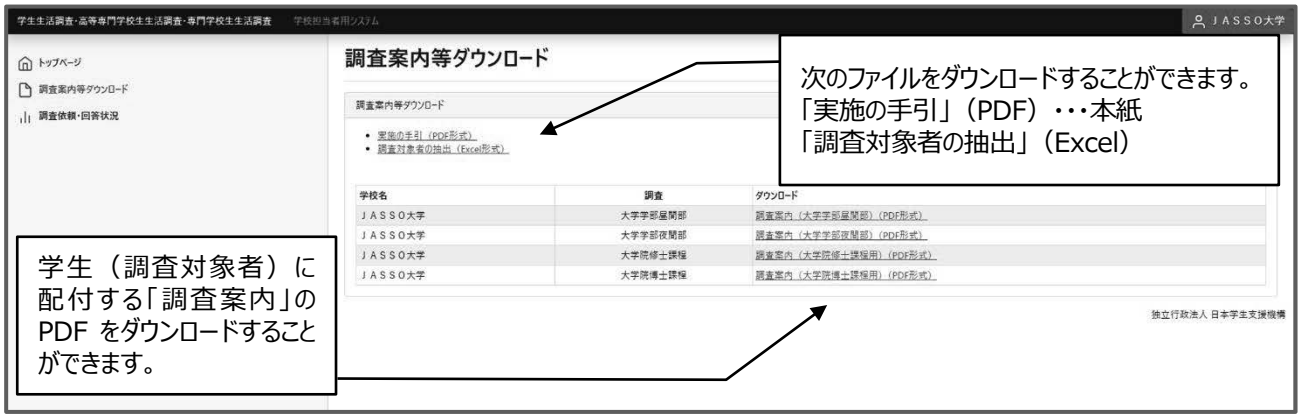
学校担当者用システムのパスワードは
こちらから変更できます。

貴校の学生（調査対象者）がアクセスする、回答者用ページの URL です。学校ごとに URL が異なります。

当機構より、調査に関連するお知らせをする場合がありますので、ご確認ください。

調査内容（回答者用ページのサンプル）は、こちらのリンクから確認できます。学生が利用する回答者用ページにはアクセスしないでください。

③調査案内等ダウンロード



次のファイルをダウンロードすることができます。
「実施の手引」（PDF）・・・本紙
「調査対象者の抽出」（Excel）

学生（調査対象者）に配付する「調査案内」のPDF をダウンロードすることができます。

④調査依頼・回答状況



貴校の調査依頼数と回答状況が、確認できます。

Ⅵ　調査に関する Q&A

調査に関するよくあるお問い合わせについて記載しておりますので、ご参照ください。

1　調査対象者及び調査対象者の抽出に関すること

Q1.今年度新設された学部（又は研究科）に在籍している学生も調査の対象になりますか。

調査対象となります。

Q2.長期履修学生、留年している学生は、調査の対象ですか。

調査の対象です。

Q3.本校では、カリキュラム上、昼間部と夜間部の区別がはっきりしません。

文部科学省が実施した学校基本調査に回答した際の昼間・夜間の別を確認していただき、配分してください。

Q4.高等専門学校の商船学科の実習生（5 年生の 6 か月間）は調査の対象ですか。

調査の対象外です。

Q5.本校に割り当てられた調査依頼数が、1 ページに示された「抽出率」に対して多すぎるようですが、なぜでしょうか。

大学学部（昼間部）と専門学校については、層化多段抽出により調査数を算出しているため、在籍学生数に抽出率を乗じた数より、割り当てられた調査数が多くなる（又は少なくなる）場合があります。

Q6.大学院や併設する短期大学には調査が依頼されていますが、大学学部には依頼されていません。大学学部の学生への調査は不要でしょうか。

層化多段抽出により調査数を算定した結果、調査の対象とならなかった学校もありますので、依頼されていなければ調査の実施は不要です。

Q7.休学者や外国人留学生を除外すると、依頼された調査数を満たすことができませんが、どうすればいいでしょうか。

調査依頼数を下回っても構いませんので、対象者のみに依頼してください。

2　学校担当者用システムに関すること

Q8.学校担当者用システムの ID、パスワードが分からなくなりました。

ID は貴校の学校コード（文部科学省付番）です。パスワードが分からなくなった場合は、当機構にお問い合わせいただければ、再度お知らせします。

Q9.学校担当者用システムのパスワードは、学内で共有しても良いですか。

共有は差し支えありません。また、複数の方が同時にログインすることもできます。

Q10.学校担当者用システムが表示されません。

しばらく時間を置いてから、再度アクセスをお試しください。

Q11.学校担当者用システムに表示されている回答状況はいつ時点のデータになりますか。

回答状況は概ねリアルタイムで更新されます（回答の混雑などにより、システムへの反映が遅れる場合があります）。

Q12.他の学校の回答状況を閲覧できますか。

学校担当者用システムで閲覧できる回答状況は自校のみとなり、他校の回答状況を閲覧することができません。

3 回答者用ページに関すること

Q13.学生から調査の回答ができないと問合せを受けました。

回答ができない場合について 、以下が想定されます。

1.回答可能期間外に調査回答ページにアクセスした場合

調査期間の令和 6 年 11 月 1 日（金）から令和 6 年 12 月 20 日（金）にアクセスするようご案内ください。

2.アクセスが集中するなど通信環境による場合

しばらく時間を置いてから再度アクセスする、場所を変えてアクセスすることをご案内ください。

3.学生の環境による場合

スマートフォン、ＰＣの環境による場合がありますので、「調査案内」でお知らせしている推奨環境でアクセスすることをご案内ください。

Q14.学生から回答内容を修正したいと問合せを受けました。

一度送信した回答内容は、修正することはできません。

Q15.学生の回答画面を確認したいのですが、学生に配付する「調査案内」に掲載されている URL や二次元コードから確認して良いですか。

調査対象者（学生）以外の方は、誤回答防止等のため、調査案内に掲載されている URL 及び二次元コードから回答者用ページにアクセスしないでください。学校担当者が回答画面を確認したい場合は、学校担当者用システムの「回答画面サンプル」専用リンクから確認してください。

Q16.調査開始日から回答できるよう調査を依頼しなければならないですか。

必ずしも調査開始日（令和 6 年 11 月 1 日）から回答できるよう依頼する必要はありませんが、回答期限内に学生が回答できるよう、できるだけ早めに依頼をお願いします。

Q17.調査（回答）期間は延長できますか。

令和 6 年 12 月 20 日（金）の時点で回答状況を取りまとめますので、学生には調査期間内に回答するようご指導願います。なお、回答状況によって、調査期間を延長する際は、早めに学校担当者システム又はメールでお知らせしますので、学生への周知をお願いします。

Q18.二重回答などの不正対策はあるのでしょうか。

同一の端末からの二重回答はできないように措置をしています。

4 個人情報の取り扱いに関すること

Q19.学生から、「調査を通じて個人情報が漏洩する心配はないのか」という問合せを受けました。

本調査では、インターネットドメイン名、IP アドレスなどの情報を自動的に取得するほか、回答者のユーザビリティー向上のため、クッキー（サーバ側で利用者を識別するために、サーバから利用者のブラウザに送信され、利用者のコンピュータに蓄積させる情報）を利用しますが、これらに、個人を特定できる情報は含まれません。また、本調査は匿名による回答のため、個人の特定はできません。

Q20.個人が特定される恐れから、1 年間の収入・支出額や家庭の収入総額などの回答を拒否している学生がいますが、どうすればよいですか。

学生支援策の検討のために重要な調査項目であること、また、本調査は匿名による回答のため、個人が特定されることは無い旨を説明してください。それでも回答を拒否する場合は、無理に回答を促す必要はありませんので、可能な範囲で回答するようご指導ください。

調査の設問内容に関する Q&A は、学生に配付する「調査案内」に掲載していますので、併せてご覧ください。

「令和６年度学生生活調査実施検討委員会」委員（50 音順、◎委員長）

沖	清豪	早稲田大学　文学学術院　教授
◎小林	雅之	桜美林大学　教育探究科学群　学群長・特任教授
濱中	義隆	国立教育政策研究所 高等教育研究部長
保田	時男	関西大学　社会学部　教授

（令和８年３月３１日現在）

令和６年度　専門学校生生活調査結果

令和 8 年（2026 年）3 月　発行

独立行政法人　日本学生支援機構
学生生活部　学生支援企画課　学生支援調査係
〒135-8630　東京都江東区青海 2-2-1
TEL 03-5520-6169
URL　https://www.jasso.go.jp/